

平成30年度事業計画(案)

理事長 田中一雄

2年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックにむけて、日本経済も明るい光を見出しつつあります。このような中、社会を創るインダストリアルデザインの役割も、更に重要性を増しているところでもあります。当協会は、デザインミュージアム事業、プロダクトデザイン検定事業、調査研究事業、セミナーや体験活動を通じた人材育成事業などを基軸とし、インダストリアルデザインの普及啓発活動を推進しております。30年度においては、公益社団法人としての社会的価値を更に高めていくことを事業目標といたしました。

具体的には、「ジャパン・デザインミュージアム」設立準備として、デザインの歴史的資料のアーカイブ活動を推進すること。「インハウス委員会」の活動強化によって、日本の基幹産業である製造業ばかりでなく、「こと産業」とも言えるサービス産業との連携も推進すること。調査・研究事業の成果物であるサンプル帳の海外頒布の本格開始なども重点テーマに挙げております。

これらの事業を通じてJIDAの社会的価値を高め、ひいては日本のインダストリアルデザインの価値を世界に再評価されることにも通じるものと確信しつつ、30年度も公益活動に邁進してまいります。

■平成30年度の活動骨子

●広報活動の強化

「JIDAデザインミュージアムからジャパン・デザインミュージアムへ」という目標を実現するために、コンテンツの収集と整理という膨大な作業を含むアーカイブ活動を着実に進める。事業活動の広報としては、ホームページの充実化とSNSを活用した効果的な告知を推進する。

●デザインミュージアム事業

JIDAデザインミュージアム・セレクション事業が30年度で第20周年を迎える節目の年であることから、20周年に相応しい内容にするための特別イベント、拡大出版などのための特別措置をおこなう。

●企業内デザイナーとの交流と連携

インハウス委員会では、毎年「インハウス女性デザイナー研究会」による研究活動と発表が行なわれているが、今までの製造業中心の参加から、30年度はサービス産業にも広げた活動を行なう。サービスデザイン、ソーシャルデザインなど、モノだけではない「コトのデザイン」というデザイン領域の広がりにも対応していく。

●調査・研究事業

スタンダード委員会・キッズデザイン部会は、産総研と東京消防庁との共同研究を継続しており、5年目に入る30年度は、駅や交通機関内における傷害事故を予防するためのソリューション開発もテーマに加えた研究を行なう。スタンダードサンプル帳は、29年度後半から中国本土での頒布の足がかりができたことから、30年度は中国への頒布・普及に尽力する。

●人材育成と教育

プロダクトデザイン検定では、教科書の改訂版を開発中であり、30年度中に新刊出版に向けた執筆・編集作業がほぼ完了する計画となっている。教育委員会は日本のデザイン系学生だけにとどまらず、海外から留学している学生に対する教育支援、情報提供や交流、就職に繋がる支援なども行なう。

●各種セミナー・体験活動事業

デザインの普及啓発及び教育目的のセミナーおよび体験活動事業は、JIDAの活動の柱であり最も大きなボリュームを占めている。30年度もさらに魅力ある企画の立案に注力し、広く一般にも海外にも門戸を広げた参加者にデザインの価値を訴えていく活動をさらに強化する。

以上